

〈解答〉

- ① 1 並立（の関係）
2 ウ
3 イ
4 ア

配点 ① 1、2 は各2点、他は各3点 10点満点

〈解説〉

- ①
1 波線②の「便利で快適に」という文節内の言葉を、「快適で便利に」と入れ換えても、波線②を含む文の意味は変わらない。これは、「便利だ」「快適だ」という二つの修飾語が、同じ言葉を修飾しているためである。このように、同じ働きをする言葉が並ぶ文節の関係を、「並立の関係」という。

- 2 ア「一目瞭然」は「ひと目見てはつきりわかることや、そのさま」、イ「順風満帆」は「物事が順調に思いどおりに運ぶこと」、ウ「電光石火」は「非常に短い時間」、エ「当意即妙」は「すばやくその場面に適応して機転をきかすことや、そのさま」という意味の四字熟語である。

- 3 傍線①に「新しい技術に使われ」とあるが、「技術に使われる」というのは、「技術を使いなせていない」「技術を有効に使えていない」ということである。傍線①と同じ段落に、「次々と新しいソフトや新しい情報処理方法についてゆけなくなる」とあり、さらに、次の段落で、「使いこなすためには、相当の時間が必要になります」、「技術を常に追いかねばならない」とあるので、新しい技術を使いこなせないまま、さらに新しい技術を後追いつているという状況が、傍線①で説明されているのだとわかる。

- 4 ②の二文前にある「それ（＝知っている情報）を使わないかぎり価値を生みません」という内容と、②の直後にある、「情報を有効に使わないと革命は起こらない」とを合わせて読むと、「使わないと価値を生まない」↓結果として「革命も起こらない」という流れになっていることがわかる。前に述べたことを原因として、後の出来事が起こるという因果関係のある二つの内容をつなぐ場合には、「だから」「したがって」などの、順接の接続詞をつかう。